

A-111 消化器系疾病患者の食生活に関する調査 (予報)

郡山女子大短大 角野幸子

目的 胃癌と食物との関係についての報告はなされていゝるが、今回演者は福島県中通り地方を中心に、消化器系疾病にて入院中の患者を対象に、食生活、食習慣、嗜好、が病気に与える影響について調査し若干の知見を得たので報告する。

方法 対象は中通り地方にて入院中の消化器系疾病の患者245名であり、昭和45年8月から10月にかけて、面接聴取法により調査を行った。調査内容は、主に約3年来の継続した嗜好、食習慣及び食生活の状態等についてである。

結果 1) 245名の内訳は、胃疾患125名、(胃癌37名、胃潰瘍72名、胃炎15名) 肝臓47名、十二指腸疾患21名、胆石17名、その他糖尿病、膵臓炎等であった。2) 職業別では、肝疾患、胃潰瘍等は、農業、公務員に多く、胃癌は農業に多かった。十二指腸疾患は、学生、生徒に多かった。3) 性別では、男子153名、女子92名であり、年齢層はいづれも、40才～50才代が多かった。4) 約3年来の嗜好、食習慣、食生活の継続した状態について、全体的な結果は、食品及び料理に好き嫌いのある者は40%であった。食後の休憩をほとんどとらない者は、朝45.6% 昼31.3% 夕29.3%であった。咀嚼についてでは、あまり噛まない者が45%をしめ、食事の速度では61%が早いと解答した。味噌汁、茶類について、非常に熱いのが好んで飲む者が約50%であった。乳類飲用にについて、飲まない者は34%であった。5) 各疾病ごとに約3年来の継続したそれぞれの状態について、比較検討した。